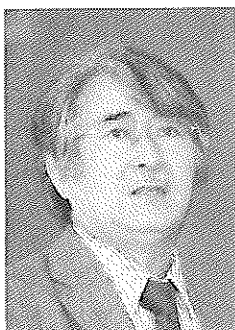


早稲田大学

北九州でシンポジウム

アンビエント
S.O.Cの課題 企業関係者ら100人超

藤後 したつさ
あいー敏・同大大学
院情報生産シ

【北九州】早稲田大学は7日、北九州市のひびきのキャンパスでシンポジウム「アンビエントS.O.Cの課題と取り組み」を開催した。同大大学院生を中心に企業関係者らも多数参加し、100人超が聴講した。

文部科学省が実施するグローバルCOEプログラム「アンビエントS.O.C教育研究の国際拠点」について説明した。

「アンビエントS.O.Cは、センサー、ソフトウェア&サービス・オン・チップの略で、誰でも安全に快適で、使いやすい」

情報環境を提供するアンビエント・テクノロジ（AT）やIT（情報技術）、NT（ナノ技術）を結集したチップ。当日の講演は「サイドチャネル攻撃とS.O.C」（NREC共通基盤ソフトウェア研究所角尾幸保主席研究員）、「メディア処理S.O.Cアーキテクチャの課題と将来展望」（NECEレクタロニクス事業部デバイス技術開発部長）、「メディア処理S.O.Cアーキテクチャの課題と将来展望」（NECEレクタロニクス事業部デバイス技術開発部長）、「メディア処理S.O.Cアーキテクチャの課題と将来展望」（NECEレクタロニクス事業部デバイス技術開発部長）。



約100人が参加したシンポジウム

アンビエントS.O.Cの実現への取組「アンビエントGCCOE国際シンポジウム」を開催する。

7月14日には東京の同大早稲田キャンパスで「アンビエントGCCOE国際シンポジウム」を開催する。